

資産運用会社のフロント・ミドルにおける S-plus の利用事例

インベスコ投信投資顧問株式会社

小寺 英司

資産運用会社は常に運用リスクを計測し、これを管理しながら資産運用を行います。運用リスクは運用部門とは独立しているリスク・マネジメント部が計測し、その結果を基に運用部門がポートフォリオの構築を行います。一般的には運用リスクは、何らかのリスク・モデルとそれに適用するパラメータ、正確なポートフォリオ・データを基に計算したリスク量として把握します。このリスク量を常時正確に計測するために、ポートフォリオ・データを管理するシステムとリスク計測システムの間にデータのやりとりはなるべく人の手を介さない形でできるようにすることが望ましいと考えられます。また、リスク量は定点での観測はさることながら、時系列での変化も重要な意味を持っています。計測のたびにパラメータを設定する必要がないようにしてヒューマン・エラーを排除することが望ましいと考えられます。

その一方で、運用を取り巻く金融環境は大きく変動しています。特に、リーマン・ショック以降の市場環境の変動は大変激しく、リスクの管理は重要でありながら、難しくなっています。通り一遍の報告のみを目的としてはリスク量を計測する意义がありません。リスク量をより積極的に運用に活かすためには市場をより正しく反映するモデルの開発、モデルやパラメータの検証が必要となります。即ち、リスク管理業務には同じ手法での継続的な計測とリスク分析手法の開発・検証の両方が重要となります。

新たなリスク分析手法の開発段階では様々な統計的な分析手法を市場データに適用する試行錯誤を繰り返すことがあります。従って、プログラミングがしやすいツールがこれに適していると考えられます。新たにリスク量を開発した場合や従前モデルの検証をした場合は運用者に理解してもらわなければなりません。そのとき必ずしも統計に明るくない人たちに直感的に理解してもらうためには図表は大変有効なツールであり、新たなリスク分析手法の開発や従前のモデルの検証に適したシステムとしてはグラフィック機能も充実しているほうが望ましいと考えられます。

本講演では、S-plus のリスク・マネジメント業務への応用事例を紹介します。